

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381073

研究課題名(和文) 保育者の転機における自己形成プロセスに関する研究

研究課題名(英文) The formation and sharing of their future time perspective

研究代表者

香曾我部 琢 (KOUSOKABE, Taku)

宮城教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：00398497

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、保育者が自らの転機についての語りから、転機の要因や転機における保育者の自己の変容について明らかにする。具体的には、まず、保育者の成長に関連性が強い保育者効力感を縦軸としたライフラインを記入し、保育者の転機の時期やその要因、プロセスについてインタビューを実施する。そして、そこで得た言語データをSCATを用いて分析を行う。その結果、転機の要因として3つのカテゴリーと異動との関連性が示された。そして、保育者が転機を「問題認識、省察、将来の展望、困難な状況の発生、他者との相互作用の活性化、他者との実感と展望の共有」、以上6つの段階のプロセスとして認識していることを示した。

研究成果の概要(英文)：In this study, we examine the expertise required for nursery school and kindergarten teachers in modern society by clarifying the factors of self-formation at their turning points through their recollections of their own experiences of turning points. Specifically, the first step is to fill in the lifeline chart with a vertical axis that gives "a sense of efficacy of nursery school and kindergarten teachers," which is deeply related to their growth; to conduct a semi-structured interview to obtain insight into the timing, factors, and processes of their turning points, using the chart as an incentive; and to analyze the obtained language data using SCAT. As a result, the relationship between three categories and the transfer was defined as the driving factor of the turning points, which indicated that nursery school and kindergarten teachers recognized their turning points as a process consisting of the following six phases.

研究分野：教育学

キーワード：保育者 転機 自己形成 省察 実践コミュニティ

## 1. 研究開始当初の背景

### 時期区分される保育者の成長

現代社会においては、少子化、過疎化、高齢化などが急激に進み、その変化に対処するために、教師、看護師、助産師などのさまざまな職業領域では、養成期における教育だけではなく、現職においても専門性を高める現職教育の必要性が高まっている。そのため、人を生涯にわたって変化していく存在として捉える「生涯発達」の概念が取り上げられた。そして、どの時期にどのような発達が求められるのか、その発達過程の特徴や平均値などを明かにすることで、現職教育へ寄与する知見を得ることを目的とした研究が行われてきた。

保育学の領域においても、この動向は同様であり、経験年数によって区分し、その区分ごとの特徴や平均値を比較することで、その差異を明らかにし、保育者の成長を捉える研究が数多く行われてきた注1)。

初心者群、中堅群、熟達群などと、保育経験年数を基準にして、保育者を分類し、カテゴリ間を比較する研究は保育者効力感や保育者アイデンティティなどの心理尺度を用いた統計的な研究だけではなく、インタビューや観察などによる質的研究で数多く見られる。

### 個人の多様な変化のプロセスと転機

しかし、近年の生涯発達研究では、発達を右肩上がり型で、一方向的なものとして捉えようとする発達観が批判された。そして、発達が社会的、文化的、歴史的な文脈の中に埋め込まれ、それらとの相互作用が発達に重要な意味を持つことが示され、発達が多方向性と多次元性を持ち、個人の多様で複雑な発達の径路を理解する必要性が示唆されてきた(サトウ 2006)。

それでは、どのようにすれば、個人の多様で複雑な発達のプロセスを理解することができるのだろうか。それに対して、杉浦

(2004)は、個別性、一回性を持つ個人の心の変容のプロセスを明らかにするためには、その人にしか起こらなかった出来事である転機の体験を明らかにする有効性を示した。また、ブラマー(1994)も、転機を明らかにすることで、「実際に変化を経験した時に起こる現象を説明するための思考体系を得る」と述べ、転機の語りから、その一連の出来事においてその人が抱いた思考や認識、その体系が理解できることを示し、その人の心の多様な変容を読み取る可能性を示唆した。

### 保育者の成長における転機

しかしながら、これまで保育者の転機についての研究は岩崎(2004)らの保育者のライフヒストリー研究の中で、保育者のライフヒストリーの一部の出来事として扱われているのみであった。そのため、転機の要因やその結果は示されているものの、その転機に関する一連の経験と出来事のプロセスは捨象されてきた。

## 2. 研究の目的

そこで、本研究では、急激で多様な変化が生じる現代社会において、保育者がどのように成長してきたのか、その成長の多様なプロセスを明らかにするために、保育者の転機の体験に着目する。そして、転機の体験とそこでの保育者の自己形成プロセスについて明らかにすることで、現代における現職教育に新しい視座を得ることが可能であると考えた。

## 3. 研究の方法

本研究では、全体として3年間の研究期間に、まず、初年度は、保育者の転機の要因、時期など、基本的な質問項目を作成、実施を行い、保育者の転機に関する基礎的な量的な調査を実施する(平成25年実施)。次年度に、それらの基礎資料をもとに、対象者を選定し、対象者に対してインタビュー調査を行い、保育者の転機の事例を収集し、その経験におけ

る成長プロセスについて、質的研究の視点から明らかにする（平成26年実施）。最終年度に、これまでの研究の成果をもとに、どのような時期に保育者に対してどのような研修内容が適切なものか、検討を行い養成教育、現職教育への新たな視座として、新たなプログラムの作成を行う。

#### 4. 研究成果

転機の要因として、資格取得や昇進などの【個人的要因】と、子ども中心主義的な教育思潮の広がりなどの【社会的要因】そして、気の合う保育者との出会いなどの【コミュニティ的要因】の3つのカテゴリーと異動との関連性が示された。

さらに、保育者が自らの転機を「問題認識、省察、将来の展望、困難な状況の発生、他者との相互作用の活性化、他者との実感と展望の共有」、以上6つの段階から構成されるプロセスとして認識していることが示された。そして、保育者個人だけでなく、他の保育者と実践コミュニティを形成し、コミュニティが将来の展望を共有することの重要性を示した。

転機における他者とのかかわりについては、保育者が5つの場にいる他者と、4つのストラテジーを用いて関わってきたことをKJ法によって明らかにした。そして、他者×かかわりの<sup>2</sup>検定から保育者が他者の場に応じてかかわりのストラテジーを使い分けていることが示され、見て学ぶ徒弟ストラテジーは同じ園の同僚保育者が多く、一方的に教そわる教授ストラテジーは研究者など地域外の専門家が多いことが示唆された。

さらに、他者とのかかわりを3つのレベルで意味づけてきたことをPAC分析で明かにした。そして、意味×他者の<sup>2</sup>検定からその意味づけに応じて他者が所属する場に違いがあり、家族などの身近な他者が保育実践の基盤となり、地域に暮らす他業種の他者が保育実践の変容を生み出すことが示された。それ

らの結果から、保育者の実践コミュニティの再構築が、保育者の意図によって主体的に促される場合と、偶然に出会ったことで偶発的に促される二面性が存在することが示唆された。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計5件)

香曾我部琢 保育者の自己形成と実践コミュニティの変容：対話的自己モデルによる実践コミュニティの分析. 宮城教育大学研究紀要, 査読無, 第50巻, 2015, pp.171-180

香曾我部琢 保育者の時間的展望の共有化と保育カンファレンス；複線経路・等至性アプローチを用いた保育カンファレンスの提案. 宮城教育大学研究紀要, 査読無, 第49巻, 2014. pp.153-160

香曾我部琢 保育者の転機の語りにおける自己形成プロセス - 将来の展望の形成とその共有化に着目して. 保育学研究, 査読有, 第51巻2号, 2013, pp.117-130

香曾我部琢 松延毅 公立保育所保育士の成長プロセスと実践コミュニティ - グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)と複線経路・等至性モデル(TEM)の比較から - . 宮城教育大学研究紀要, 査読無, 第48巻, 2013, pp.159-166

香曾我部琢 複線経路・等至性モデルを用いた保育カンファレンスの提案 - 保育者が感情共有プロセスとそのストラテジーに着目して - 宮城教育大学研究紀要, 査読無, 第48巻, 2013, pp.159-166

〔学会発表〕(計6件)

香曾我部琢 2015/06/27 口頭発表, 保育者の自己形成と実践コミュニティ - 保育者効力感のメタ分析より. 日本こども社会学会第22回大会, 愛知教育大学(愛知県刈谷市)

香曾我部琢 2015/3/21 ポスター発表「保育者の実践コミュニティ感覚尺度に関する研究」日本発達心理学会第 26 回大会，東京大学（東京都文京区）

香曾我部琢 2014/11/30 口頭発表「保育者の転機における実践コミュニティの変容」日本乳幼児教育学会第 24 回大会，，広島大学(広島県東広島市)

Taku KOUSOKABE, 2014/6/28, Proposal of a mixed method approach to clarify psychological developmental order. International Mixed Methods Conference 2014, Boston College(USA Boston)

香曾我部琢 2014/03/22 保育者の実践コミュニティに関する研究 - 保育実践コミュニティの評価尺度作成の試み，日本発達心理学会第 25 回大会，京都大学(京都府京都市)

香曾我部琢 2013/06/28 保育者の実践コミュニティに関する研究-その発生と発展プロセスに着目して-日本子ども社会学会第 20 回大会， 関西学院大学（兵庫県西宮市）

〔図書〕(計 2 件)

高橋満，香曾我部琢他，対人支援職者の専門性と学びの空間．創風社，2015，pp.61-201

香曾我部琢 現代社会における保育者の自己形成プロセスと実践コミュニティ，ナカニシヤ出版，2016，161

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：

権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

香曾我部琢 (KOUSOKABE, Taku)  
宮城教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：00398497